

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771400482		
法人名	特定非営利活動法人 ほととぎすの会		
事業所名	グループホーム ほととぎす		
所在地	香川県高松市香川町川東下672-5		
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果市町受理日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建ての造りで、天窓から明るい日差しが入り込み、温かみのある建物となっている。敷地内には畑があり、季節の野菜を植えて収穫し、食材として活用している。屋内には中庭もあり、いつでもご利用様が自由に出入りが出来ている。今はコロナの為、ご家族様の面会も行っていないのでホーム内での様子は毎月のお便りなどで見てもらっている。今は外出もできないので、ホーム内を音楽に合わせて歩行訓練をしたり、カラオケやレクリエーションなど、楽しく過ごしている。また、下肢筋力が低下しないように個別に運動を行ったり、食事もおやすいように工夫をして提供している。

基本情報リンク先	
----------	--

事業所は、田んぼや民家が点在する長閑な住宅地に位置し、ユニットには中庭があり、天窓からも自然光が入る温かみのある木造平屋建ての住居である。管理者や職員は明るく活動的で、職員の雰囲気を利用者にも効果的に作用しており、心地よい居場所づくりに繋がっている。また、心身の健康を維持するため、ホーム内では賑やかにカラオケや体操、レクリエーション活動等も多数行われており、笑顔があふれる事業所となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい ama 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの名前にちなんだ理念を作り、技能実習生でも分かりやすい言葉で唱えている	創業時以来、理念は継続されている。朝の引継時に職員全員で唱和され、研修でも理念についての話し合いが持たれている。また技能実習生にもわかりやすい言葉で伝える等工夫をし、実践に繋がられている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、交流は出来ていない。挨拶運動もしていない	コロナ禍にあって、地域との交流機会はもてていないが、平時においては、挨拶運動や水路の清掃などの活動がなされていた	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為、できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2.2.27より、コロナの為、運営推進会議を中止している。2ヶ月ごとに地域包括支援センターに報告をしている。R3. 10月に再開したが、面会をしていないのでまた延期もっている。	コロナ禍により、運営推進会議は書面でのやり取りとなっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの空き情報などの問い合わせがあり、空きが出ると施設などに連絡し、入居が出来るように働きかけている	市の担当者や包括支援センター職員とは必要な報告や書類が交わされている。また、日頃から顔の見える協力関係が築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開いて、日頃気になる言葉遣いや介助方法について話し合い意見を出している。改善すべき点を見直し、身体拘束を行わないケアをしている	身体拘束に該当する事例はないが、勉強会を開き、日頃の言葉遣いや介助方法等予防策について話し合われている。より良いケア実現のため日々見直し、改善が行われる体制にある	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホーム内で勉強会を行い、虐待に繋がらないように声掛けをし、職員全員に周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の勉強会を行い、自立支援や成年後見制度を必要としている方がいる時は地域包括に連絡している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの契約書重要事項説明書を文章で説明し、ご利用様やご家族様に不安や疑問などがないように十分説明し、納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用様やご家族様の意見が反映されるように意見箱を設置したり、ご家族様が面会時に気軽に話せる事ができるように信頼関係を築けるように努めている	玄関に意見箱が設置されている。また、コロナ禍で面会が難しいため、お便り等で利用者の様子が伝えられている。日頃から、意見や要望が言いやすい関係作りに努められており、上がった要望等は管理者や職員が話し合い運営に反映させられている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体のミーティングを開き、職員の意見などを聞いて、働きやすい環境づくりに努めている	理事長や管理者は職員と共に働き、事業所の現状を把握している。月1回の全体ミーティングや引継時に意見や提案がなされている。管理者との職員個人面談もあり、意見を参考に働きやすい職場づくりに努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所に来ており、ご利用様と過ごしたり、職員の悩み事を把握して気軽に相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技能実習生の育成と職員の質の向上を高める為、施設内での研修を月に1回行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は他のグループホームに訪問し、ご利用者様も交えた交流が出来ていたが、今は出来ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様から生活歴などを聞き取り、その人が暮らしてきた生活を尊重しながら支援をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用様の困っていることや不安に思っていることを聞き、ご家族様の立場や求めていることを理解している。ご家族様も安心出来るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、何に困っているのかを見極め、柔軟な対応がとれるようにしている。また、利用開始までに気軽に来れるように働きかけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用様の声に耳を傾けて、信頼関係が築けるように努めている。職員もご家族様と同じような関係が作れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の思いに寄り添いながらご家族様と共にご利用様を支え、ご利用様と信頼関係が築けるように話しやすい環境作りを目指している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナの為、外出はできていないが、お盆になると、ご利用者様から「お墓参りに行きたい」とご家族様に連絡していたので一緒にお墓参りに出掛けている	面会が制限されてるコロナ禍であり人の出入りは少ない。本人の希望や家族の協力でお墓参りに出かけるなど、個別の支援が心掛けられている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様同士の関係性を把握しており、上手くコミュニケーションが図れるように職員が調整役を担っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も地域包括支援センターやケアマネージャーなどに連絡して、スムーズに新しい生活に慣れるように相談や支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取り、その人が暮らしてきた生活を尊重し、話を聞くようにしている。また、意思疎通が困難な場合は、その人らしい暮らしができるように支援している	入所時より本人や家族等に思いや意向を聞き取り、アセスメントシートに記載されている。意思疎通困難な場合には本人の動向や表情、家族からの情報提供を受け、本人の思いが検討されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用様やご家族様から生活歴や暮らし方などを聞いて、生活しやすい環境作りに努めている。また、新しく得た情報は、職員全員で共有するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課やその人ができる能力を把握し、その人が出来る事を一緒に支援している。またご利用者様のペースに合わせた介助を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用様やご家族様からこれからの意向を聞きとり、職員間で情報を共有している。また、チームでの課題やケアのあり方を話し合っている。話し合った意見を共有して介護計画に反映している	利用者や家族から意向を聞き取り、職員間で情報を共有し、日々の生活での課題やケアの在り方等話し合い計画に反映させられている。定期に加え、心身に変化がある際にも計画の変更・修正が行われている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、ご利用様の様子や変化などを観察し、個別記録に記入している。知りえた情報などは、ノートに記入して職員間で共有しながらケアに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様の状態やご家族様の意向を聞いて、ホームで食事会を開いている。外で食べる事により、ご利用者様の笑顔も見られている。また、外出や外泊はご家族様に協力を求めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナの為、出来ていないが、コロナが落ちつくと交流の場を設けたいと思っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診に来てもらっている。かかりつけ医とも連携を図り、時間外や休日でも診てもらえるように体制をとっている	協力病院のかかりつけ医が定期的に往診し、歯科医師も往診がある。専門医の受診には家族が付き添い職員は送迎を行っている。緊急時の受診にもかかりつけ医は受け入れ可能で、連携は出来ている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状態を観察し、少しでも体調の変化が見られる時は相談をしている。また、受診が必要な時は、受診するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過を病院に報告して、病院との連携を図っている。また、入院中にもご利用様の状態や様子を聞いて、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に終末期の過ごし方の意向を聞いて、終末期の方針を確認するようにしている。また、ご利用様が重度化してきた時は、病院・ご家族様・看護師などと相談しながら、ご本人様が望む暮らしができるように支援している	入居時に本人や家族と終末期についての意向が確認されている。また、重度化の都度、医療関係者の意見や協力も得ながら、家族と共に本人が望むような最後の看取りができるよう支援がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今はコロナの為、年に1回、消防署の協力を得て、職員全員で救命救急の実施訓練の講習を受けていたが、出来ていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今はコロナの為、年に2回、そのうち1回は消防署の方を招き、避難訓練を行っていたが、今できていない。ホーム内での避難訓練は行い、消防にも書類は提出している	大規模な避難訓練は出来ないが、利用者参加の避難を行い、備蓄や持ち出し貴重品、個々の着替え等も常備され災害に備えられている	未曾有の災害に備えて、近くの住民との協力関係の構築、共同訓練の実施等を通じた更に災害に強い事業所作りに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会をなど通して職員の意識向上図り、日常生活の関りの中で、利用様の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行うようにしている	職員は認知症の研修を受け、利用者一人ひとりの個性にこだわり声掛けや対応がなされている。排泄や入浴・居室の入退室時にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様の想いや希望を汲み取りながら支援している。また、自己決定が困難な利用様は表情やしぐさから汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけている。個別での支援を行い、出来るだけ残存機能を生かした生活が送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に似合った洋服を選んで着てもらっている。整髪も行い、おしゃれを楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで育てた野菜を収穫して食材に取り入れている。ご利用様と一緒に野菜を切ったり、盛り付けや後片付けも行っている。食べる時は一緒にテーブルに座り、会話をしながら食べている	ユニットでの食事作りにこだわり、利用者が自然に参加できる雰囲気がある。食材の掃除や刻み食事の準備、片づけ等に利用者は職員と一緒にいる。で利用者一人ひとりの力が引出されている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量のチェックを行っている。あまり水分を摂らないご利用様には好みの飲み物やこまめに摂ってもらうようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行って清潔を保っている。口腔ケア後も残渣物がないか確認もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表をつけている。定期的にトイレの声掛けをしたり、トイレ誘導もやっている。出来るだけトイレで排泄が出来るように支援している	個々の排泄記録に基づき、定期的にトイレへの誘導がなされている。声掛け等は周囲にわからないようにして、本人の自尊心に配慮し、必要な部分の支援が行われている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェック表をつけている。水分量が少ないご利用様には、こまめに水分を摂ってもらうようにしている。また、便秘になっているご利用様にはお腹のマッサージをするなど、便が出やすいように促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴ができるように、入る前から話をするなどスムーズに入浴ができる環境を作っている。入浴時には楽しい会話をしながら入ってもらっている	入浴は一応午後を予定しているが、日時は決めないで利用者の様子を見ながら、タイミングの良いときに実施されている。スムーズな入浴を行う雰囲気を作り、入浴は職員との対話等により楽しい時間となっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決めてゆっくり休んでもらっている。夜間は定期的にトイレ誘導を行い、安心して眠れるように声掛けを行い、よく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を把握できるようにし、服薬時には、名前・日付を声に出して復唱し、誤薬しないように手渡しして飲んでもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや居室の掃除などを毎日の日課にしている。日々の生活の中で活躍できる場所を提供し、一人ひとりの力が発揮できるようにしている。また、カラオケや塗り絵などもして気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は個別に散歩に出掛けていたが、今はコロナの為、行っていない。病院受診などは、ご家族様をお願いして受診してもらっている	園庭の花や畑の作物を見たり、園内を巡り体操や散歩をして過ごしており、コロナ禍では感染対策のために外出支援は控えられている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は外出もできないので、本人様より買って来て欲しい物がある時は職員が買って来たり、ご家族からの差し入れがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯を持っているご利用様は自分で携帯をかけている。ホームにご家族様からかかってきた時は、ご本人様に代わって話をしてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったり、居室には今までの作品やや賞状を飾るなど居心地のよい空間づくりをしている。天窓からは明るい陽射しが入り込んでいる。皆様共用のリビングでゆったり過ごしている	玄関脇には桜並木があり、そこで毎年花見が行われている。天井の高い広々としたリビングは明るく、食事をしたり、リハビリのためにゲームや体操をしたり、ゆったりと休養したり、それぞれ思い思いに過ごせる空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに仲の良いご利用様同士で座って話をしたり、カラオケや塗り絵などを楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用様の希望により、毎日拝んでいたご本尊様を持参され、毎日拝んでいる。ご本尊様があることで、ご利用様も安心して過ごすことができている	居室では出窓から自然環境が望める。広い納戸があり、ベッドも備わっている。私物の持ち込みも出来るのでダンスや仏壇・TVなどを運び入れ、その人らしい部屋となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりにご利用様が出来る事を把握して支援を行っている。ご利用様が出来ることを見つけて自信が持てるように努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの名前にちなんだ理念を作っている。今年から外国人技能実習生技能実習生にも分かりやすい言葉で理念を唱和している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、交流は出来ていない
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為、出来ていない
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2.2. 27より、コロナの為、運営推進会議を中止している。2ヶ月ごとに地域包括支援センターに報告をしている。R3.10月に再開したが、面会をしていないのでまた延期してもらっている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも家族からの相談をしたり、ホームの空き情報の連絡をしている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回、勉強会を開いて、日頃気になる言葉遣いや介助方法について話し合い意見を出している。改善すべき点を見直し、身体拘束を行わないケアをしている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホームで勉強会高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行い、虐待に繋がらないように声掛けし、職員全員に周知している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の勉強会を行い、成年後見制度について学んでいる
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの契約書重要事項説明書を文章で説明している。ご利用様に不安や疑問などがないように十分説明し、納得してもらっている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用様やご家族様の意見が反映されるように意見箱を設置したり、ご家族様が面会時に気軽に話せる事ができ、信頼関係を築けるように努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体のミーティングを開き、職員の意見などを聞いて、働きやすい環境づくりに努めている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所に来ており、ご利用様と過ごしたり、職員の悩みを把握している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技能実習生の育成と職員の質の向上を高める為、施設内での研修を月に1回行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は他のグループホームに訪問し、ご利用様も交えた交流が出来ていたが、今は出来ない

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たり、ご本人様やご家族様から現在までの生活歴、得意なことや趣味などを聞いている。ご利用様が安心して生活が送れるように環境づくりと他の利用者様や職員との構築を図っている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用様の困っていることや不安に思っていることを聞き、ご家族様の立場や求めていることを理解している。ご家族様が安心出来るようにもしている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、何に困っているのかを見極めて、出来る限り、柔軟な対応がとれるようにしている。また、利用開始までに気軽に来れるように働きかけている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用様の声に耳を傾けて、信頼関係が築けるように努めている。職員もご家族様と同じような関係が作れるように努めている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の想いに寄り添いながらご家族様と共にご利用様を支え、ご利用様と信頼関係が築けるように話しやすい環境作りを心がけている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用様と馴染みのある方が頻繁に面会に来られるような環境作りに努めている。また、外出や外泊などご家族様の協力を得ながら支援している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様同士の関係性を把握しており、上手くコミュニケーションが図れるように職員が調整役を担っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も地域包括支援センターやケアマネージャーなどに連絡して、スムーズに新しい生活に慣れるように相談や支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取り、その人が暮らしてきた生活を尊重し、話を聞くようにしている。また、意思疎通が困難な場合は、その人らしい暮らしができるような環境を整えている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用様やご家族様から生活歴や暮らし方などを聞いて、生活しやすい環境作りに努めている。また、新しく得た情報は、職員全員で共有するようにしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課やその人ができる能力を把握して、その人が出来る事を支援している。また、少しの変化にも気づけるように心がけている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用様やご家族様から意向を聞きとり、職員間で情報を共有している。また、チームでの課題やケアのあり方を話し合っている。話し合った意見を共有して介護計画に反映している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、ご利用様の様子や変化などを観察し、個別記録に記入している。知りえた情報などは、ノートに記入して職員間で共有しながらケアに努めている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様の状態やご家族様の意向を聞いて、ホームで食事会を開いている。外で食べる事により、利用者様の笑顔も見られている。また、外出や外泊はご家族様に協力を求めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナの為、出来ていないが、コロナが落ち着くと、また交流の場を設けたいと思っている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診に来てもらっている。かかりつけ医とも連携を図り、時間外や休日でも診てもらえるように体制をとっている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、状態を観察し、少しでも体調の変化が見られる時は、相談をしている。また、受診が必要な時は、受診するようにしている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの経過を病院に報告して、病院との連携を図っている。また、入院中にもご利用様の状態や様子を聞いて、情報交換をしている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に終末期の過ごし方の意向を聞いて、終末期の方針を確認するようにしている。また、ご利用様が重度化してきた時は、病院・ご家族様・看護師などと相談しながら、ご本人様が望む暮らしができるように支援している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今はコロナの為、年に1回、消防署の協力を得て、職員全員で救命救急の実施訓練の講習を受けていたが、出来ていない
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今はコロナの為、年に2回、そのうち1回は消防署の方を招き、避難訓練を行っていたが、今できていない。ホーム内での避難訓練は行い、消防にも書類は提出している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会等で尊重について再確認し意識向上を図り、利用者様の誇りやプライドを損ねない対応を常に心がけている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の想いや希望に耳を傾け日々のケアを行っている。また、自己決定が困難な利用者様はしぐさや表情で汲み取るようにしている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた個別の支援を心がけ日々対応している。利用者の希望、得意な事を生かしてメリハリのある生活が送れるようにしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい装いやおしゃれが出来るように身だしなみなどに気を付けて支援している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューが出せるように野菜はホームの畑で収穫した物を取り入れている。また、利用者と野菜を切ったり盛り付けや後片付けも行っている。食事は利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をしている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量のチェックを行い、食事量や水分量が少ない利用者様には、盛り付け方や器を変える等個別に対応し食事が美味しく食べれるように声を掛けを工夫している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きも声掛けを行い、清潔保持を保っている。口腔ケア後は残渣物がないか確認している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄チェック表をつけている。定期的にトイレの声かけやトイレ誘導を行いトイレで排泄が出来るように支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時に水分を摂ってもらったり、同時にお腹のマッサージを行いトイレに座る習慣を心がけている。また、食事に繊維質の食材を取り入れ便が出やすいように心がけている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみとなるように声掛けを工夫し、リラックスした気分で入浴できるように心がけている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を考え、夜間安心して眠れるように支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を把握できるようにしている服薬時には、名前を確認してから本人に手渡し服薬出来ているか再確認している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で生きがいや役割が持てるように食事の手伝いや洗濯等、個々に活躍できる場所を提供している。また一人ひとりの力が発揮できるようなレクを考え提供している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛け季節を感じてもらっている。ご家族様に協力をして頂き外出や外泊を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はコロナの為、外出もできないので、欲しい物がある時は職員が買って来たり、ご家族様からの差し入れがある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から荷物が届いたり、手紙が届くとお礼の電話をかけてもらっている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は中庭から日が差し込み利用者様が日光浴をされる等くつろげる空間がある。また居室には他者様と一緒に作った季節を感じられる手芸や工作、カレンダーを飾り落ち着ける環境作りをしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや畳で仲の良い利用者様同士で座り話をしたり、個々に楽しめるように工夫をしている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の希望により居室で好みの歌やスポーツ中継をラジオで聴いている方がいる。昔からTVよりラジオが好きで毎日新聞を読みラジオ番組の確認をするのが楽しみとなっている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を把握し、自信をもって出来るように支援している